

生産地の維持へ 園地で剪定学ぶ

三重県南伊勢町
「みかんの学校」

【三重・伊勢】南伊勢町のかんきつ生産者で組織する「南勢産地でみかん農家をワイワイ育てる会」は2月上旬、南伊勢町役場南勢庁舎と同町内のミカン園地で、本年度最後となる「みかんの学校」の第6回講習会を開いた。受講生10人が参加した。

みかんの学校は、栽培管理の基礎知識や技術などを学ぶ講習会。

溝口会長⑥から剪定方法を教わる受講生ら



同町水産農林課、かんきつ生産農家、JA伊勢、県中央農業改良普及センターの担当者らでつくる「南勢産地協

議会」が協力する。本年度はかんきつ栽培に興味のある13人が受講した。

同町の主産業であるかんきつ生産の担い手確保と育成が狙い。同町では古くから、温暖な気候を生かしたミカンの栽培が盛んで、現在は約100戸の農家が栽培している。

講習会は、県中央農業改良普及センターの担当者が剪定（せんてい）の方法や注意点などを同町役場南勢庁舎で説明。その後、ミカン園地に移動し、生産者4人とJA職員らが講師となり、実習を行った。受講生らは講師らの剪定を見ながら、剪定のポイントなどを学んだ。

実習終了後には、育てる会会長の溝口安幸さんが、受講生に修了

証書を手渡した。

溝口会長は「ミカン栽培に関心を持って学んでくれる人がいるのがうれしい。講習会は座学だけでなく、実習も行い、実践的な学びになるように工夫している。技術を継承し、生産地の維持とさらなる発展を目指したい」と話す。